

1

次の取引の仕訳を示しなさい。

- 単純総合原価計算を採用している和歌山製作所は、月末に工場の従業員に対する賞与の月割額を計上した。ただし、半年分の賞与の支払予定額は ¥1,020,000 である。
- 会計期末にあたり、材料消費価格差異勘定の残高を売上原価勘定に振り替えた。なお、材料消費価格差異勘定の前月繰越高は ¥9,000 (貸方) であり、当月の素材の予定消費高 ¥1,480,000 と実際消費高 ¥1,460,000 との差額は、材料消費価格差異勘定に振り替えられている。
- 等級別総合原価計算を採用している京都工業株式会社において、1級製品300個と2級製品440個が完成するとともに副産物が発生した。ただし、総合原価は ¥2,700,000 であり、そのうち副産物の評価額は ¥180,000 であった。なお、等価係数は次の各製品/個あたりの重量を基準としている。
1級製品 300g 2級製品 250g
- 工程別総合原価計算を採用している奈良工業株式会社は、月末に工程別総合原価計算表を作成し、各工程の完成品原価を次のとおり計上した。なお、各工程の完成品はすべていったん倉庫に保管しており、第1工程完成品2,500個のうち2,000個を第2工程(最終工程)に投入している。ただし、月初に第1工程完成品の在庫はなかった。
第1工程 ¥3,200,000 第2工程 ¥4,160,000
- 工場会計が独立している山口製作所の本社は、かねて、得意先大阪商店に製品4,700個を @¥2,400 で掛け売りしていたが、本日、そのうち30個が工場に返品されたので、売上高および売上原価を修正した。なお、この製品の製造原価は @¥1,800 である。ただし、本社には製品勘定を設けていない。(本社の仕訳)
- 個別原価計算を採用している兵庫製作所では、A製品(製造指図書#1)とB製品(製造指図書#2)を製造している過程で作業くずが発生し、これを ¥20,000 と評価した。なお、この作業くずは製造指図書別に発生額を区別することができない。

2

滋賀製作所は、組別総合原価計算を採用し、A組製品とB組製品を製造している。次の資料によって、組別総合原価計算表とA組製造勘定を完成しなさい。

- ただし、i 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。
ii 月末仕掛品原価の計算は平均法による。

資料

a. 当月製造費用

	A 組	B 組	組間接費
素材費	¥2,800,000	¥2,760,000	—
労務費	¥1,650,000	¥2,116,000	¥694,000
経費	¥1,161,000	¥1,328,000	¥1,706,000

b. 月末仕掛品数量

- A 組 300個 (仕上り程度50%)
B 組 500個 (仕上り程度40%)

なお、組間接費はA組に55%、B組に45%の割合で配賦する。

3

次の各問いに答えなさい。

- (1) 次の文の のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。
製造数量や直接作業時間などの増減にもなって、発生高が比例的に増減する原価要素を変動費という。これには、 や出来高払賃金などがある。

1. 租税公課 2. 保険料 3. 直接材料費

- (2) 島根製作所における下記の資料により、製造原価報告書および損益計算書に記載する次の金額を求めなさい。なお、貸率差異は売上原価に振り替える。

- a. 当期労務費 b. 当期経費 c. 売上原価

資料

① 素材	期首棚卸高	¥358,000	当期仕入高	¥2,143,000	期末棚卸高	¥365,000
② 工場消耗品	期首棚卸高	¥40,000	当期仕入高	¥392,000	期末棚卸高	¥52,000
③ 賃金	当期予定消費高	<input type="text"/>	当期実際消費高	¥4,960,000	貸率差異	¥50,000 (借方)
④ 給料	当期消費高	¥1,160,000				
⑤ 外注加工賃	前期前払高	¥37,000	当期支払高	¥431,000	当期前払高	¥25,000
⑥ 電力料	当期支払高	¥240,000	当期測定高	¥280,000		
⑦ 減価償却費	当期消費高	¥367,000				
⑧ 仕掛品	期首棚卸高	¥789,000	期末棚卸高	¥489,000		
⑨ 製品	期首棚卸高	¥910,000	期末棚卸高	¥816,000		

- (3) 広島工業株式会社は、直接原価計算をおこない利益計画をたてている。下記の資料から、次の金額を求めなさい。

- a. 売上高が ¥5,000,000 のときの営業利益 b. 損益分岐点の売上高
c. 目標営業利益 ¥900,000 を達成するための売上高

資料

① 販売価格	@¥4,000	③ 販売費および一般管理費	
② 製造費用		変動販売費	@¥500
変動製造費	@¥2,500	固定販売費および一般管理費	¥140,000
固定製造間接費	¥340,000		

- (4) 標準原価計算を採用している岡山製作所の当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。ただし、直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。なお、解答欄の () のなかに不利差異の場合は (不利)、有利差異の場合は (有利) と記入すること。

- a. 材料消費数量差異 b. 直接労務費差異 c. 予算差異

資料

① 標準原価カード

H製品	標準原価カード		
	標準消費数量	標準単価	金額
直接材料費	5kg	¥800	¥4,000
直接労務費	2時間	¥1,500	¥3,000
製造間接費	2時間	¥1,600	¥3,200
	製品/個あたりの標準原価		¥10,200

- ② 実際生産数量 月初仕掛品 200個 (仕上り程度40%)
完成品 800個
月末仕掛品 300個 (仕上り程度50%)
- ③ 実際直接材料費 ¥3,586,000
(実際消費数量 4,400kg 実際単価 ¥815)
- ④ 実際直接労務費 ¥2,730,000
(実際直接作業時間 1,750時間 実際賃率 ¥1,560)
- ⑤ 実際製造間接費発生額 ¥2,870,000
- ⑥ 製造間接費予算
変動費予算額 ¥1,239,000
固定費予算額 ¥1,593,000
基準操業度 (直接作業時間) 1,770時間

4

鳥取製作所は、個別原価計算を採用し、A製品（製造指図書#1）とB製品（製造指図書#2）を製造している。下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 6月中の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 部門費振替表を相互配賦法によって完成しなさい。
- (3) A製品（製造指図書#1）の原価計算表を完成しなさい。
- (4) 6月末の貸金未払高を求めなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材	160個	@¥3,250	¥ 520,000
工場消耗品	240"	" " 50	¥ 12,000
貸 金 (未払高)			¥ 440,000
仕 掛 品 (製造指図書#1)			¥3,536,000 (原価計算表に記入済み)

- ii 素材の消費高の計算は先入先出法により、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
- iii 賃金の消費高の計算には、作業時間/時間につき ¥1,400 の予定賃率を用いている。
- iv 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を基準として予定配賦している。

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額	¥6,900,000	¥4,730,000
年間予定直接作業時間	15,000時間	11,000時間

- v 製造間接費勘定を設けている。

取 引

6月 4日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材	500個	@¥3,300	¥1,650,000
工場消耗品	900"	" " 50	¥ 45,000

9日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材500個を消費して製造を開始した。

16日 製造経費を次のとおり小切手を振り出して支払った。

電 力 料	¥169,000	雑 費	¥13,000
-------	----------	-----	---------

25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃金総額	¥3,550,000
うち、控除額	所得税 ¥274,000 健康保険料 ¥143,000

30日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は180個であった。よって、消費高を計上した。（間接材料）

② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。ただし、消費賃金勘定を設けている。

製造指図書#1	1,200時間	製造指図書#2	1,000時間	間接作業	300時間
---------	---------	---------	---------	------	-------

③ 健康保険料の事業主負担分 ¥143,000 を計上した。

④ 当月の製造経費消費高を計上した。

電 力 料	¥168,000	保 険 料	¥18,000
減価償却費	175,000	雑 費	12,000

⑤ 当月の直接作業時間は次のとおりであった。よって、製造部門費を予定配賦した。

		第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書#1	400時間	800時間
	製造指図書#2	900時間	100時間

⑥ 製造間接費を次の部門費配分表によって各部門に配分した。

部 門 費 配 分 表

平成〇年6月分

費 目	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第1部門	第2部門	動力部門	修繕部門
部門費合計		984,000	464,000	289,000	126,000	105,000

⑦ 補助部門費を次の配賦基準によって各製造部門に配賦した。

	配 賦 基 準	第1製造部門	第2製造部門	動力部門	修繕部門
動力部門費	kW数×運転時間数	30kW×800時間	20kW×800時間	—	10kW×200時間
修繕部門費	修 繕 回 数	6回	6回	2回	—

- ⑧ A製品（製造指図書#1）80個が完成した。
- ⑨ 当月の賃金実際消費高 ¥3,476,000 を計上した。
- ⑩ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。
- ⑪ 第1製造部門費および第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

1

	借方	貸方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

2

組別総合原価計算表
平成〇年6月分

摘要	A組	B組
組直接費		
材料費		
加工費		
組間接費		
加工費用		
当月製造費用		
月初仕掛品原価	380,000	720,000
材料費		
加工費	420,000	552,000
計		
月末仕掛品原価	477,000	
材料費		
加工費		376,000
完成品原価		
完成品数量	1,700個	2,500個
製品単価	¥	¥

A組製造	
前月繰越	800,000 () ()
材料	2,800,000 次月繰越 ()
労務費	1,650,000
経費	()
()	()
()	()

3

(1)

(2) a 当期労務費 ¥ b 当期経費 ¥ c 売上原価 ¥

(3) a 売上が¥5,000,000のときの営業利益 ¥ b 損益分岐点の売上高 ¥ c 目標営業利益¥900,000を達成するための売上高 ¥

(4) a 材料消費数量差異 ¥ () b 直接労務費差異 ¥ ()
c 予算差異 ¥ ()

試験場校	受験番号

原計の1得点

4 (1)

		借	方	貸	方
6月	4日				
	9日				
	16日				
	25日				
30日	①				
	②				
	③				
	④				
	⑤				
	⑥				
	⑦				
	⑧				
	⑨				
	⑩				
	⑪				

(2) 部門費振替表
相互配賦法 平成〇年6月分

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	
			第1部門	第2部門	動力部門	修繕部門
部門費合計						
動力部門費	kW数×運転時間数					
修繕部門費	修繕回数					
第1次配賦額						
動力部門費	kW数×運転時間数					
修繕部門費	修繕回数					
第2次配賦額						
製造部門費合計						

(3) 製造指図書# / 原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費			集計		
		部門	時間	配賦率	金額	摘要	金額
2,606,000	700,000	第1	500	460	230,000	直接材料費	
						直接労務費	
						製造間接費	
						製造原価	
						完成品数量	80個
						製品単価	¥

(4) 6月末の賃金未払高 ¥

試験場校	受験番号

原計の2得点

総得点

1

	借	方	貸	方
a	製	造	従業員賞与手当	170,000
b	材料消費価格差異	29,000	売上原価	29,000
c	1級製品	1,134,000	製造	2,700,000
	2級製品	1,386,000		
	副産物	180,000		
d	第1工程半製品	3,200,000	第1工程製造	3,200,000
	第2工程製造	2,560,000	第1工程半製品	2,560,000
	製品	4,160,000	第2工程製造	4,160,000
e	売上	72,000	売掛金	72,000
	工場	54,000	売上原価	54,000
f	作業くず	20,000	製造間接費	20,000

2

組別総合原価計算表
平成〇年6月分

摘 要	A 組	B 組
組直接費	2,800,000	2,760,000
材料費		
加工費	2,811,000	3,444,000
組間接費	1,320,000	1,080,000
加工費		
当月製造費用	6,931,000	7,284,000
月初仕掛品原価	380,000	720,000
材料費		
加工費	420,000	552,000
計	7,731,000	8,556,000
月末仕掛品原価	477,000	580,000
材料費		
加工費	369,000	376,000
完成品原価	6,885,000	7,600,000
完成品数量	1,700個	2,500個
製品単価	¥ 4,050	¥ 3,040

A 組 製 造	
前月繰越	800,000 (A組製品) (6,885,000)
材料	2,800,000 次月繰越 (846,000)
労務費	1,650,000
経費	(1,161,000)
(組間接費)	(1,320,000)
	(7,731,000)

3

(1) 3

(2)

a	当期労務費 ¥ 6,070,000	b	当期経費 ¥ 1,090,000	c	売上原価 ¥ 10,120,000
---	-------------------	---	------------------	---	-------------------

(3)

a	売上高が¥5,000,000のときの営業利益 ¥ 770,000	b	損益分岐点の売上高 ¥ 1,920,000	c	目標営業利益¥900,000を達成するための売上高 ¥ 5,520,000
---	----------------------------------	---	-----------------------	---	---------------------------------------

(4)

a	材料消費数量差異 ¥ 80,000 (有利)	b	直接労務費差異 ¥ 120,000 (不利)
c	予算差異 ¥ 52,000 (不利)		

4 (1)

		借 方		貸 方	
6月 4日	素 工 場 消 耗 材 品	1,650,000 45,000		買 掛 金	1,695,000
9日	製 造	1,642,000		素 材	1,642,000
16日	電 力 料 雑 費	169,000 13,000		当 座 預 金	182,000
25日	賃 金	3,550,000		所 得 税 預 り 金 健 康 保 険 料 預 り 金 当 座 預 金	274,000 143,000 3,133,000
30日	① 製 造 間 接 費	48,000		工 場 消 耗 品	48,000
	② 製 造 間 接 費	3,080,000 420,000		消 費 賃 金	3,500,000
	③ 製 造 間 接 費	143,000		健 康 保 険 料	143,000
	④ 製 造 間 接 費	373,000		電 力 料 保 險 料 減 価 償 却 費 雑 費	168,000 18,000 175,000 12,000
	⑤ 製 造	985,000		第 1 製 造 部 門 費 第 2 製 造 部 門 費	598,000 387,000
	⑥ 第 1 製 造 部 門 費 第 2 製 造 部 門 費 動 力 部 門 費 修 繕 部 門 費	464,000 289,000 126,000 105,000		製 造 間 接 費	984,000
	⑦ 第 1 製 造 部 門 費 第 2 製 造 部 門 費	129,000 102,000		動 力 部 門 費 修 繕 部 門 費	126,000 105,000
	⑧ 製 品	5,744,000		製 造	5,744,000
	⑨ 消 費 賃 金	3,476,000		賃 金	3,476,000
	⑩ 消 費 賃 金	24,000		賃 率 差 異	24,000
	⑪ 第 1 製 造 部 門 費 製 造 部 門 費 配 賦 差 異	5,000 4,000		製 造 部 門 費 配 賦 差 異 第 2 製 造 部 門 費	5,000 4,000

(2)

部 門 費 振 替 表

相互配賦法

平成〇年6月分

部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第 1 部 門	第 2 部 門	動 力 部 門	修 繕 部 門
部 門 費 合 計		984,000	464,000	289,000	126,000	105,000
動 力 部 門 費	kW数×運転時間数	126,000	72,000	48,000	—	6,000
修 繕 部 門 費	修 繕 回 数	105,000	45,000	45,000	15,000	—
第 1 次 配 賦 額		231,000	117,000	93,000	15,000	6,000
動 力 部 門 費	kW数×運転時間数	15,000	9,000	6,000	—	—
修 繕 部 門 費	修 繕 回 数	6,000	3,000	3,000	—	—
第 2 次 配 賦 額		21,000	12,000	9,000	—	—
製 造 部 門 費 合 計		984,000	593,000	391,000	—	—

(3)

製造指図書# /

原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配 賦 率	金 額	摘 要	金 額
2,606,000	700,000	第 1	500	460	230,000	直接材料費	2,606,000
	1,680,000	第 1	400	460	184,000	直接労務費	2,380,000
	2,380,000	第 2	800	430	344,000	製造間接費	758,000
					758,000	製造原価	5,744,000
						完成品数量	80個
						製品単価	71,800

(4)

6月末の賃金未払高	366,000
-----------	---------